

2025年度 地理歴史科シラバス (No. 2)

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース						
教科書	『地理総合』二宮書店 『新詳高等地図』帝国書院		副教材	『最新地理図表GEO』第一学習社			
科目の概要	社会で求められる資質・能力のうち、空間認識を養う役割を果たす必修科目として、2年生全員が学ぶ科目で、大きく3つの項目から構成されている。※①地図とGIS（地理情報システム）の活用、②グローバル化に対応する国際理解と国際協力、③防災と持続可能な社会の構築（ESD：持続可能な開発のための教育） 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題の探究や解決につながる力の育成を図る。 現在発生している世界的な課題を取り扱うため、ニュースや時事問題にも関心を持つ。			評価の観点	○知識・技能…社会全体に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題に関わる地理的な素養を身につけている。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…社会的事象の地理的な見方・考え方について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価方法	○知識・技能…定期考査で評価します。 ○思考・判断・表現…定期考査の施行問題やレポート、課題等で評価します。 ○主体的に学習に取り組む態度…授業態度や提出物、グループ活動等で評価する。		
				学習方法	地理の学習では、ひとつの事象を多面的に捉えることが重要である。授業内で扱った語句の意味を理解することはもちろん、その語句がどの国や地域に関わるものなのか、グラフや表に表すとどのようにまとめられるのかなど、その都度しっかりと確認し、活用できるように学びを深める。		
授業内容	1学期は、地図の読図によって世界を概観し、地理情報システムの活用方法を身につけて世界を多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 2学期は、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性を持つことや変容することを理解し、特色ある事例から問いを立てて考察を加え、学習を深める。また、地球的課題解決に向けた国際協力の意義や必要性を学び、SDGsなどを参考にしながら、さまざまな課題を自らの課題として捉え、取り組む姿勢を涵養する。 3学期は、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応について、多様な地理情報を総合して対処する技能を身につける。			備考			

2025年度 地理歴史科シラバス (No. 3)

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 総合キャリア、英語、看護、幼児教育、スポーツ、音楽 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『高校生の地理総合』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院)		副 教 材	『高校生の地理総合ノート』(帝国書院)			
科目 の 概 要	社会で求められる資質・能力のうち、空間認識を養う役割を果たす必修科目として、2年生全員が学ぶ科目で、大きく3つの項目から構成されている。※①地図とGIS(地理情報システム)の活用、②グローバル化に対応する国際理解と国際協力、③防災と持続可能な社会の構築(ESD:持続可能な開発のための教育) 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題の探究や解決につながる力の育成を図る。 現在発生している世界的な課題を取り扱うため、ニュースや時事問題にも関心を持つ。			評価 の 観 点	○知識・技能…社会全体に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題に関わる地理的な素養を身につけている。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…社会的事象の地理的な見方・考え方について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価 方 法	○知識・技能…定期考査や小テスト等で評価する。 ○思考・判断・表現…定期考査やレポート、課題等で評価する。 ○主体的に学習に取り組む態度…授業態度や提出物、グループ活動等で評価する。		
	授 業 内 容			学 習 方 法	地理の学習では、ひとつの事象を多面的に捉えることが重要である。授業内で扱った語句の意味を理解することはもちろん、その語句がどの国や地域に関わるものなのか、グラフや表に表すとどのようにまとめられるのかなど、その都度しっかりと確認し、活用できるように学びを深める。		
	1学期は、地図の読図によって世界を概観し、地理情報システムの活用方法を身につけて世界を多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 2学期は、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性を持つことや変容することを理解し、特色ある事例から問いを立てて考察を加え、学習を深める。また、地球的課題解決に向けた国際協力の意義や必要性を学び、SDGsなどを参考にしながら、さまざまな課題を自らの課題として捉え、取り組む姿勢を涵養する。 3学期は、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応について、多様な地理情報を総合して対処する技能を身につける。			備 考			

2025年度 地理歴史科シラバス (No. 4)

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース (文系)、英語コース、総合キャリアコース (文系特進)						
教科書	『詳説日本史』山川出版社		副 教 材	『新詳日本史』浜島書店			
科目 の 概 要	日本史探究では、私たちの住む日本列島における人びとの歩みを学ぶ。具体的には、日本における政治・社会・経済・文化などである。その際、列島内部にとどまらず、日本と密接な関係を有した多くの地域との関係性に留意していくことが必要である。 上記の観点に留意しつつ学習を進めることで、日本社会がどのように形成されてきたのかを理解し、日本の現在と未来を見定めることができるようになることが目標である。 2年生においては、原始・古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。			評価 の 観 点	○知識・技能…近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価 方 法	定期考査と平常点で評価する。平常点は授業への積極的な姿勢・授業中の小テスト・レポート・課題プリントなどで総合的に評価する。調べ学習やグループ発表に取り組む姿勢など、学び合う意欲を評価する。		
				学習 方 法	授業への積極的参加と小テスト対策をしっかりとる。歴史の流れ、各用語の理解に努める。(練習・復習) 授業等で取り上げられた史料の歴史的解釈を理解する。(発展的学習内容)		
授業 内 容	授業の中では、小テストを適宜実施して知識の定着を図る。また地図・パネル・DVDといった視覚的な教材を用いて、歴史を多角的に捉える視点を養うことをめざす授業を展開する。 現代の日本で起こっている様々な問題の歴史的背景を考察し、今後の展開を考える素地を養う授業をめざす。また、大学受験に対応できる学力の養成も意識した内容とする。 授業内で取り組むことのできない文化史や経済史に関しては、ICT や講習を活用して学習する。			備 考	歴史能力検定を、11月頃に本校で受験できる。		

2025年度 地理歴史科シラバス (No. 5)

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 総合キャリアコース、スポーツコース、幼児教育コース、音楽コース						
教科書	『詳説日本史』山川出版社		副教材	『新詳日本史』浜島書店			
科目の概要	日本史探究では、私たちの住む日本列島における人びとの歩みを学ぶ。具体的には、日本における政治・社会・経済・文化などである。その際、列島内部にとどまらず、日本と密接な関係を有した多くの地域との関係性に留意していくことが必要である。 上記の観点に留意しつつ学習を進めることで、日本社会がどのように形成されてきたのかを理解し、日本の現在と未来を見定めることができるようになることが目標である。 2年生においては、原始・古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。			評価の観点	○知識・技能…近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価方法	定期考査と平常点で評価する。平常点は授業への積極的な姿勢・授業中の小テスト・レポート・課題プリントなどで総合的に評価する。調べ学習やグループ発表に取り組む姿勢など、学び合う意欲を評価する。		
				学習方法	日本史学習の基本は、復習である。授業を受けた後、授業で学習した事柄を確認、整理し、理解することが必要である。また、適宜実施する小テストに備え、反復学習で実力を身につける。		
授業内容	教科書、副教材の内容に沿ったプリントを使用し、授業を展開する。適宜、授業内容を踏まえた小テストを実施し、知識の定着を図る。また地図・パネル・映像といった視覚的な教材を用いて、歴史を多角的に捉える視点を養うことをめざす。 課題や問題の特性に応じて、iPad を使用し、調べ学習を行ったり、調べた内容をグループで共有したりするなどの取り組みを通し、理解を深める。 歴史は暗記のイメージが強い傾向にあるが、現代の日本で起きている多様な問題の歴史的背景を考察し、未来について考える力を養うことをめざす。			備考	歴史能力検定を、11月頃に本校で受験できる。		